

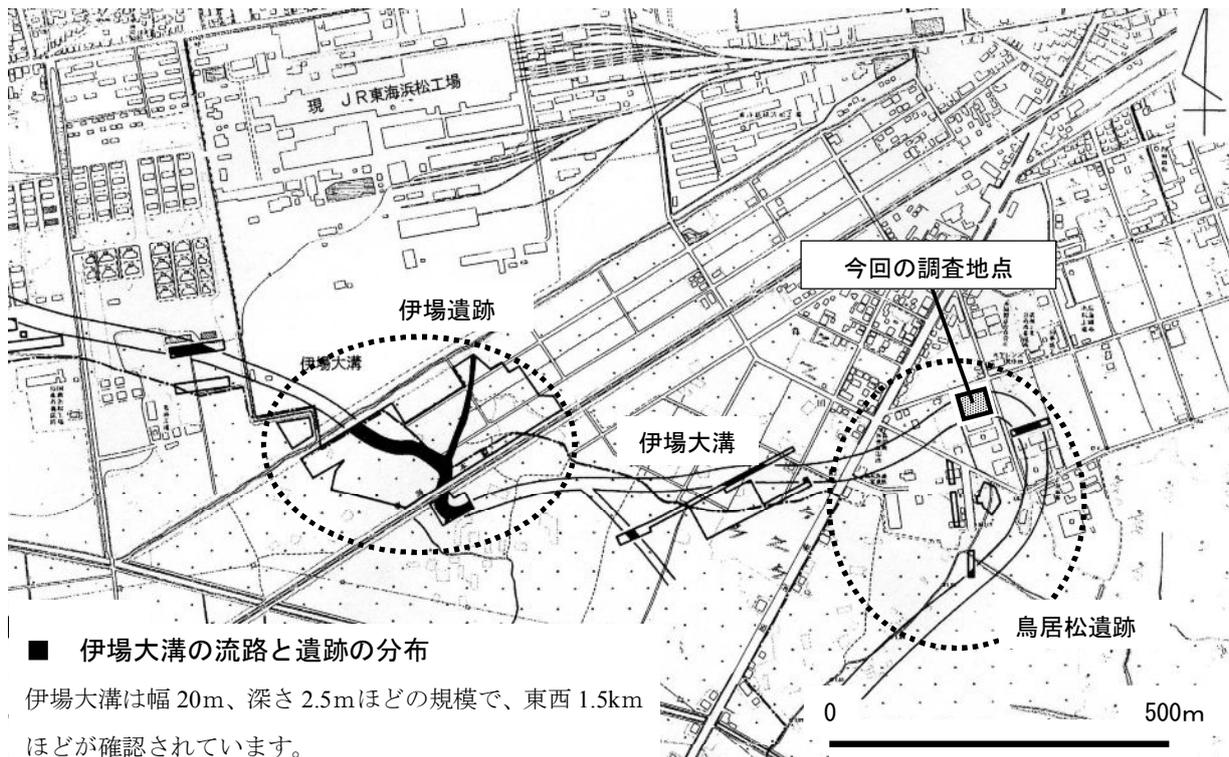
とりいまついせきつうしん
鳥居松遺跡通信

Nº4

(財) 浜松市文化振興財団・浜松市文化財担当課

2008年3月3日

鳥居松遺跡と伊場遺跡の関係が明確になりました。



■ 伊場大溝の流路と遺跡の分布

伊場大溝は幅 20m、深さ 2.5mほどの規模で、東西 1.5km ほどが確認されています。



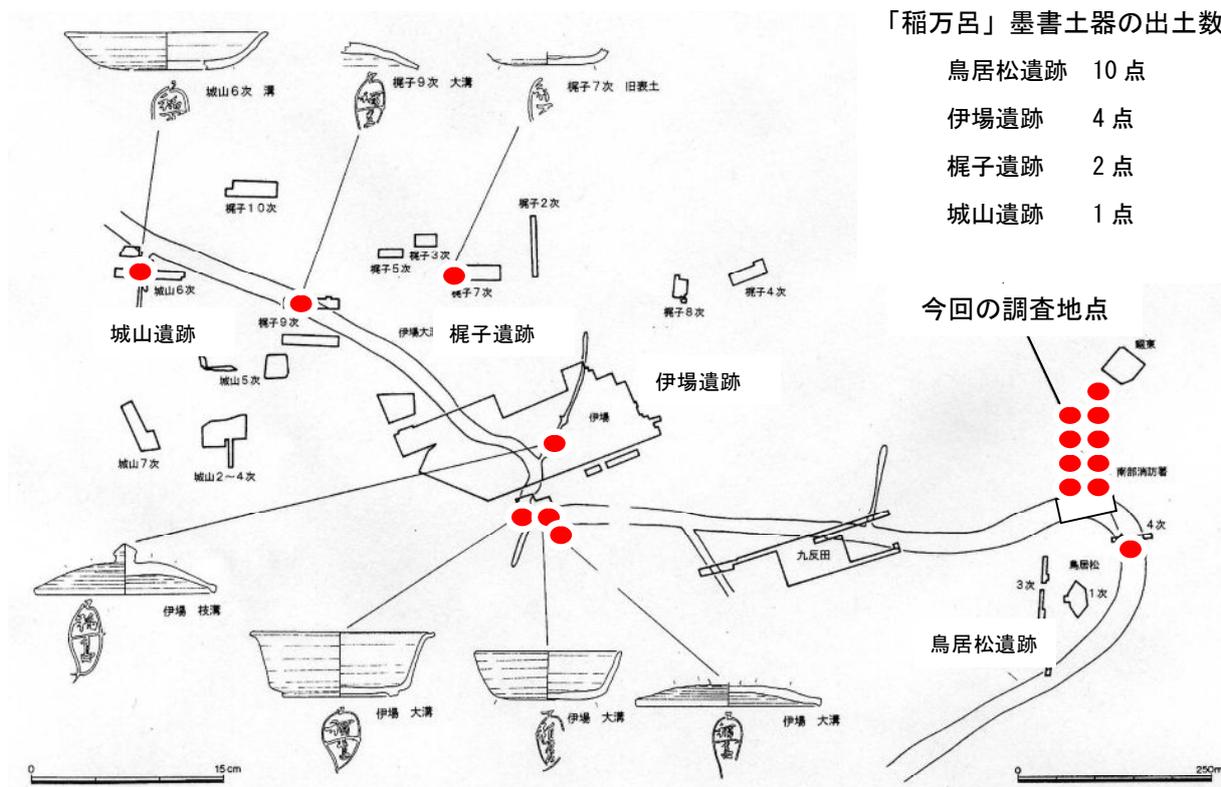
■ 伊場大溝の調査風景

溝は幅 20m、深さ 2.5mほどの規模で、伊場遺跡につながります。

鳥居松遺跡の調査では、伊場大溝とよばれる古代の小川の跡が確認できました。この川の跡は、幅 20m、深さ 2.5mほどの規模で、東方 700mほどにある伊場遺跡で確認された溝とつながります。

鳥居松遺跡の出土品をみると、木簡や墨書土器といった文字資料、木製の祭祀用具など伊場遺跡と共通するものが多く、伊場遺跡と同じ性格をもつことが分かります。古代の郡役所(敷智郡衙)が東西 1kmほどにわたって展開していると予想できます。

「稲万呂」墨書土器が集中的に出土しました。



■ 「稲万呂」墨書土器とその分布

「稲万呂」墨書土器は、郡役所の全域で出土しており、相当な有力者であったことがうかがえます。



「稲万呂」は郡役所きっての有力者です。彼がかかわった土器には、独特のトレードマークを用いて名前が書かれています。鳥居松遺跡からは、既に 10 点の「稲万呂」墨書土器が確認されており、周囲では最も集中しています。鳥居松遺跡に稲万呂の居宅があったかもしれません。